

平成28年度総合特区デイサービス改善インセンティブ事業の概要

5つの指標で、ストラクチャー・プロセスを評価。評価指標を達成した事業所にはアウトカム評価を実施し、上位事業所に奨励金を付与。また、DASCモデル事業で、認知症の早期発見・早期対応に努める。

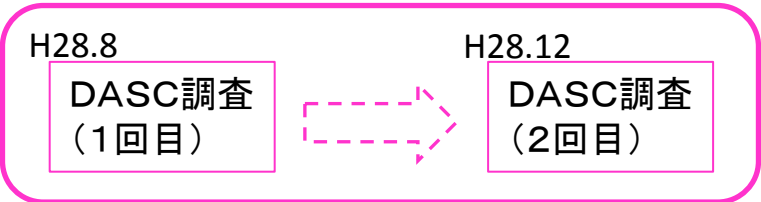


説明会を実施
今年度の事業に参加する場合は、日常生活機能評価を実施すること

参加・・・
H28=164事業所
H27=153事業所
H26=151事業所

○評価指標の収集(H28.12時点)
○調査結果から、評価指標のベンチマークの達成(3つ以上)の可否状況で評価する
H28=72事業所、H27=72事業所、H26=60事業所

| 評価指標 | |
|------|------------------------|
| 1 | 外部研修への参加状況 |
| 2 | 医療機関との積極的連携(DASCモデル事業) |
| 3 | 認知症高齢者の受け入れ人数 |
| 4 | 機能訓練指導員の常勤換算人数 |
| 5 | 介護職員のうち、介護福祉士の常勤換算人数 |



指標達成事業所のうち、日常生活機能評価の維持・改善度で評価

【指標達成事業所かつアウトカム評価上位】
表彰 + 奨励金 + 情報公開
H28=10事業所、H27=12事業所

【指標達成事業所】
表彰 + 情報公開

日常生活機能評価票 *平成28年3月4日保医発0304第1号別添6

| No | 評価項目 | 選択肢(配点) | | |
|------|--------------------|-----------|-----------------|------|
| | | 0点 | 1点 | 2点 |
| 1 | 安静の判断 | なし | あり | 2点 |
| 2 | どちらかの手を胸元まで持ち上げられる | できる | できない | |
| 3 | 寝返り | できる | 何かにつかまればできる | できない |
| 4 | 起き上がり | できる | できない | |
| 5 | 座位保持 | できる | 支えがあればできる | できない |
| 6 | 移乗 | 介助なし | 一部介助 | 全介助 |
| 7 | 移動方法 | 介助を要しない移動 | 介助を要する移動(搬送を含む) | |
| 8 | 口腔清潔 | 介助なし | 介助あり | |
| 9 | 食事摂取 | 介助なし | 一部介助 | 全介助 |
| 10 | 衣服の着脱 | 介助なし | 一部介助 | 全介助 |
| 11 | 他者への意思の伝達 | できる | できる時とできない時がある | できない |
| 12 | 介助の指示が通じる | はい | いいえ | |
| 13 | 自傷行動 | ない | ある | |
| 合計点数 | | | | 点 |

19点満点で合計点が低いほど、生活自立度が高い。

指標達成事業所とは・・・

下記の5つの指標は岡山市と市内事業所が共同して選定した「デイサービスの質を評価する指標」です。デイサービス改善インセンティブ事業では5つの評価指標のうち、3つ以上の指標のベンチマークを達成した事業所を指標達成参加事業所としています。

| | 評価指標 | ベンチマーク | ベンチマーク 達成事業所数 |
|---|--|-------------------|------------------|
| 1 | 外部研修への参加状況 延べ人数／職員数(常勤換算人数) | 評価対象事業所の 平均値以上 | 71事業所 |
| 2 | 医療機関との積極的連携 (DASCモデル事業への参加の有無) | | 67事業所 |
| 3 | 認知症高齢者の受け入れ人数 実人数／利用定員 (H26はⅡa以上、H27はⅢa以上) | | 66事業所 |
| 4 | 機能訓練指導員の常勤換算人数 常勤換算人数／職員数(常勤換算人数) | | 68事業所 |
| 5 | 介護職員のうち、介護福祉士の常勤換算人数 常勤換算人数／職員数(常勤換算人数) | | 83事業所 |

指標達成事業所数

H28は、72事業所／164事業所参加。○○○

H27は、72事業所／153事業所参加

H26は、60事業所／151事業所参加

5つ達成・・・ 4事業所
4つ達成・・・16事業所
3つ達成・・・52事業所

<個票の見方①:指標の達成状況>

5つの「指標による評価」の補足

○外部研修の参加状況

事業所が、職員に対して介護サービスの向上に寄与する研修にどの程度研修にさせているかを評価しています。

○医療機関との積極的連携

DASCモデル事業に参加しているかどうかを評価しています。

○認知症受け入れ人数

日常生活自立度 3a以上の認知症の高齢者の受け入れている人数を評価しています。

○機能訓練指導員の常勤換算人数

理学療法士、作業療法士、柔道整復師、看護師等のリハビリ専門職である機能訓練指導員の人数で評価しています。

○介護職員のうち、介護福祉士の常勤換算人数

専門的知識と技術をもって認知症や寝たきりのお年より、障害があるために日常生活を営むことに支障がある人たちに対し、身体的、精神的自立を助けるために入浴、食事、排泄等の介護を行う介護福祉士の人数で評価しています。

<個票の見方②:アウトカム評価の達成状況>

アウトカム評価上位事業所とは・・・

- デイサービス改善インセンティブ事業参加事業所が、平成28年6月・12月の2度にわたり、サービス利用者に日常生活機能評価(※1)を実施。
- その結果、1回目調査より2回目調査の方が、日常生活機能評価得点が低い人(状態が維持・改善した人)が多い事業所のうち、利用者の状態の維持改善率が高い事業所の上位10位までが「アウトカム評価上位事業所」として岡山市から奨励金が付与されます。
- 奨励金の金額・・・@100,000円×10事業所

日常生活機能評価票 * 平成28年3月4日保医発0304第1号別添6

| No | 評価項目 | 選択肢(配点) | | |
|------|--------------------|-----------|-----------------|------|
| | | 0点 | 1点 | 2点 |
| 1 | 安静の判断 | なし | あり | |
| 2 | どちらかの手を胸元まで持ち上げられる | できる | できない | |
| 3 | 寝返り | できる | 何かにつかまればできる | できない |
| 4 | 起き上がり | できる | できない | |
| 5 | 座位保持 | できる | 支えがあればできる | できない |
| 6 | 移乗 | 介助なし | 一部介助 | 全介助 |
| 7 | 移動方法 | 介助を要しない移動 | 介助を要する移動(搬送を含む) | |
| 8 | 口腔清潔 | 介助なし | 介助あり | |
| 9 | 食事摂取 | 介助なし | 一部介助 | 全介助 |
| 10 | 衣服の着脱 | 介助なし | 一部介助 | 全介助 |
| 11 | 他者への意思の伝達 | できる | できる時とできない時がある | できない |
| 12 | 介助の指示が通じる | はい | いいえ | |
| 13 | 自傷行動 | ない | ある | |
| 合計点数 | | | | 点 |

19点満点で合計点が低いほど、生活自立度が高い。

※1

日常生活機能評価とは、急性期病院や慢性期病院で使われている看護必要度のうち、ADLを図る標準化された13項目から尺度。

岡山市ではこの尺度を使い、デイサービス利用者
に調査をして、事業所ごとの維持・改善状況をもと
にアウトカム評価を平成27年度から実施していま
す。